

平成24年度 長野県諏訪清陵高等学校学校評価 — 学校関係者評価まとめ (年度末評価)

※評価の目安 C: 自己評価が不十分 ~ A: 十分自己評価がなされた

教育目標	取組	評価の観点	評価	本校の自己評価結果についてのご意見等	(参考数値)
生徒の学力向上 (重点目標)	①生徒の家庭学習時間の増加 ②教員の指導力向上と授業改善 ③教科における課題の明確化と解決に向けた計画的な取組 ④SSH、生徒による授業評価、自反会(土曜講座)、授業シラバスの活用	①生徒の学力が向上したか	C・B・A	○特に3年生については、1年時からの推移を考えると、良い結果だった。 ○各学年及び各教科の取組が、一定の成果を出している。	・生徒学習状況調査 ・試験成績(模試、センター試験) ・生徒による授業評価
		②生徒の満足する授業、知的探究心を喚起する授業ができたか	C・B・A	○生徒の実態に即して授業改善や創意工夫が行われ、理解が深められた。	
		③家庭学習時間の増加が図られたか	C・B・A	○部活動との両立に向けての考察があってもよい。 ○客観的に評価されている。更なる指導を望む。 ○やる気のある生徒、ない生徒の学力の差があるとのこと。部活が(3年)終わってからのやる気に期待したい。 ○教科によってばらつきが見られるが、妥当な自己評価であると思われる。	
		④生徒による授業評価に基づく授業改善がなされたか	C・B・A	○なかなかむずかしい事柄であるが、一層の努力を期待する。 ○生徒の声が授業改善に生かされている。	
		⑤各教科の課題が解決されたか	C・B・A	○客観的に評価されている。 ○各教科、学年によって課題の内容も異なるが、積極的に課題に取り組んでいる。	
		⑥自反会の目的が達成されたか	C・B・A	○自反会の目的が達成されるよう取組がなされている。 ○自反会のキャパシティ増の検討も必要か。	
		⑦シラバスの整備と活用が図られたか	C・B・A	○シラバスの整備・活用が図られている。	
主体的な進路選択と進路実現の支援	①合同HR、講演会、自反会交流会(先輩外部講師)等による進路意識の向上と進路研究への支援 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有化 ④指導の継続及び改善のための進路係と各学年間の連携	①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組ができたか	C・B・A	○よい結果である。 ○各学年とも、それぞれの立場で、進路意識の向上が図られ、生徒の主体的な進路決定がなされている。	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数
		②生徒の自己目標実現のための指導に十分取り組めたか	C・B・A	○早い段階から進路指導をすることにより、志望校が明確になり、勉強方法にも無駄がなくなるのでよいと思う。 ○早い段階からの進路指導が行われるなど、積極的な取組がなされている。	
		③実力テストや校外模試が有効に活用されたか	C・B・A	○各学年とも、それぞれの立場で活用されている。	
		④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか	C・B・A	○3学年、1学年について、きめ細かな情報提供が行われている。	
		⑤進路係、各学年間の連携が十分に図られたか	C・B・A	○大変よいと思う。 ○進路指導係と学年会が、最新の情報を共有するなど、連携が図られている。	
SSHに向けた学校全体の取組み	①理数を中心に、高度な科学的思考力を育み学力を高めるための指導方法等の開発 ②理数に重点を置いた教育課程の導入(2,3年) ③大学、企業との連携 ④「清陵サイエンスフォーラム21」の開催 ⑤科学系クラブ活動の振興 ⑥国際性を育む	①理数英を中心に各教科で指導内容・方法の研究開発に取組み、校内で組織的に研究が推進されたか	C・B・A	○客観的に評価されている。一層の改善を期待する。 ○具体的な成果がよくわからない、担当者会2回で何がどう改善されたか知りたい。(特にどんな対策がなされたのか。) ○自己評価のとおりであると思われる。	・SSH意識調査 ・各事業終了後の生徒充実度調査
		②生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲が向上する取組であったか	C・B・A	○計画どおり実施できたこと、生徒の評価が良好であることは評価できると思う。	
		③生徒の満足度を高める取組であったか	C・B・A	○希望生徒が増加したことは評価できる。	
		④連携を効果的に行えたか	C・B・A	○連携を効果的に行うために、講座を精選し、生徒の負担を軽減することも、必要なことである。	
中高一貫教育に向けた学校全体の取組み	①学校目標、教育方針の決定 ②6年間の教育課程(全体計画)の策定 ③施設設備に関わる基本構想の策定 ④リーフレットの作成	①中学と高校を有機的に結びつける教育内容になっているか	C・B・A	○清陵型の中高一貫教育をもっと発信していくべき。 ○これからのことだと思うが、清陵生(高校)へ、中学生への受けとめ、関わり方、新しい中高一貫校としての在り方など指導すべきではないかと思う。 ○25年度はがんばって目標達成できることを願います。 ○自己評価のとおり、細部にわたる検討を早急に進めてほしい。	
		②教育力向上に資する教育内容になっているか	C・B・A	○自己評価のとおりである。	
		③地域説明会等を通して、本校の目指す中高一貫教育を十分に伝えられたか	C・B・A	○地域の児童・保護者等の関心も強く、期待も大きいので、積極的に広報活動を進めてほしい。	
		④目指す生徒像がわかるパンフレットが作成できたか	C・B・A	○自己評価のとおりである。	
自主・自立性に基づく「清陵生としての自覚」を高める指導	①校友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導 ②学校生活におけるモラルの向上	①学校生活の様々な場面において適切な指導ができたか	C・B・A	○客観的な評価がなされている。 ○いじめは表面からはわからないので、生徒の変化に早く気づくことが必要。	
		②校友会へ効果的な指導助言ができたか	C・B・A	○折に触れ、適切な指導助言が必要である。	
		③生徒の自主・自立性を尊重した指導ができたか	C・B・A	○人間としての在り方・生き方を踏まえた改善策のとおり取り組んでほしい。	
校友会の自主的活動支援とクラブ活動の活性化	①顧問の適切な指導 ②活動の保障	①校友会活動を自主的に推進するための指導ができたか	C・B・A	○課題とされる指導体制の円滑な引継ぎ、その改善策についての検討が必要である。	・クラブ加入者数
		②クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか	C・B・A	○課題については、早めに検討を始めてほしい。	
広報活動の充実	①HPの充実と校内運営体制の整備、広報誌「清水ヶ丘便り」の充実、学校案内ビデオ・パンフレット作成、中学校訪問 ②授業公開日の適切な設定	①HP、「清水ヶ丘便り」等は充実していたか	C・B・A	○自己評価のとおりである。	・HP更新回数 ・広報誌発行回数 ・授業公開来校者数
		②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか	C・B・A	○更なる努力が必要。中高一貫に伴い、より広域化が求められる。 ○親も子も初めてのことで、より丁寧な説明があると安心するのでは。 ○自己評価のとおり充実が図られていると思う。	